

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)

【公開番号】特開 2005-174315 (P2005-174315A)

【公開日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)

【年通号数】公開・登録公報 2005-025

【出願番号】特願 2004-334756 (P2004-334756)

【国際特許分類】

G 0 6 F 21/24 (2006.01)

G 0 6 F 21/02 (2006.01)

G 0 6 K 17/00 (2006.01)

H 0 4 L 9/32 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 12/14 5 2 0 F

G 0 6 F 12/14 5 1 0 C

G 0 6 F 12/14 5 3 0 C

G 0 6 F 12/14 5 6 0 D

G 0 6 K 17/00 F

G 0 6 K 17/00 L

G 0 6 K 17/00 S

H 0 4 L 9/00 6 7 3 E

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 12 日 (2007.6.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可搬性記憶媒体から情報を読み出す情報読出手段と、

前記可搬性記憶媒体へ情報を書込む情報書込手段と、

前記情報読出手段が前記可搬性記憶媒体から読出した情報を記憶する記憶手段と、

前記情報読出手段及び前記情報書込手段を制御する制御手段とを有し、

前記制御手段は、前記可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合に、前記可搬性記憶媒体から読出した所定情報を前記記憶手段に記憶させるとともに前記所定情報を前記可搬性記憶媒体から消去し、前記可搬性記憶媒体が前記所定エリアに持ち込まれる場合に、前記記憶手段から読出した前記所定情報を前記可搬性記憶媒体に書込むよう前記情報読出手段及び前記情報書込手段を制御することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】

前記可搬性記憶媒体に記憶される該可搬性記憶媒体を特定するための特定情報を管理する管理手段と、

前記情報読出手段が該可搬性記憶媒体から読出す前記特定情報が前記管理手段により管理されている特定情報と一致するか否かを判定する判定手段とを更に有し、

前記制御手段は、前記可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合であって前記可搬性記憶媒体から読み出した特定情報が前記管理手段により管理される特定情報と一致すると前記判定手段が判定した場合に、該可搬性記憶媒体に記憶された所定情報を該可搬性記憶媒体から消去することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記制御手段は、前記可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合に、該可搬性記憶媒体に記憶された所定情報であって機密にすべき旨の指定がなされた所定情報を該可搬性記憶媒体から消去するよう前記情報書込手段を制御することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記可搬性記憶媒体は、非接触にて通信可能な記憶媒体であり、前記情報読出手段は、非接触状態にて該可搬性記憶媒体から情報を読み出し、前記情報書込手段は、非接触状態にて該可搬性記憶媒体に情報を書込むことを特徴とする請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合に、前記可搬性記憶媒体から読み出した所定情報を前記可搬性記憶媒体とは異なる他の記憶媒体に記憶させるとともに前記所定情報を前記可搬性記憶媒体から消去し、

前記可搬性記憶媒体が前記所定エリアに持ち込まれる場合に、前記他の記憶媒体から読み出した前記所定情報を前記可搬性記憶媒体に書込むよう制御する

ことを特徴とする情報処理方法。

【請求項 6】

前記可搬性記憶媒体から読み出す当該可搬性記憶媒体を特定するための特定情報が前記他の記憶媒体にて管理される特定情報と一致するか否かを判定し、

前記可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合であって前記可搬性記憶媒体から読み出した特定情報が前記他の記憶媒体にて管理される特定情報と一致すると判定した場合に、前記可搬性記憶媒体に記憶された所定情報を該可搬性記憶媒体から消去することを特徴とする請求項 5 に記載の情報処理方法。

【請求項 7】

前記可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合に、該可搬性記憶媒体に記憶された所定情報であって機密にすべき旨の指定がされた所定情報を該可搬性記憶媒体から消去することを特徴とする請求項 5 又は 6 に記載の情報処理方法。

【請求項 8】

前記可搬性記憶媒体は、非接触にて通信可能な記憶媒体であり、非接触状態にて該可搬性記憶媒体から情報を読み出し、非接触状態にて該可搬性記憶媒体に情報を書込むことを特徴とする請求項 5 ～ 7 の何れか 1 項に記載の情報処理方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

そこで、本発明は、可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合の情報の漏洩を防止するとともに、可搬性記憶媒体に記憶された情報の所定エリア内での利用を可能とする情報処理装置及び情報処理方法を提供することを目的とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

上記課題を解決するため、本発明に係る情報処理装置は、可搬性記憶媒体から情報を読み出す情報読出手段と、前記可搬性記憶媒体へ情報を書込む情報書込手段と、前記情報読出手段が前記可搬性記憶媒体から読み出した情報を記憶する記憶手段と、前記情報読出手

段及び前記情報書込手段を制御する制御手段とを有し、前記制御手段は、前記可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合に、前記可搬性記憶媒体から読出した所定情報を前記記憶手段に記憶させるとともに前記所定情報を前記可搬性記憶媒体から消去し、前記可搬性記憶媒体が前記所定エリアに持ち込まれる場合に、前記記憶手段から読出した前記所定情報を前記可搬性記憶媒体に書込むよう前記情報読出手段及び前記情報書込手段を制御することを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、本発明に係る情報処理方法は、可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合に、前記可搬性記憶媒体から読出した所定情報を前記可搬性記憶媒体とは異なる他の記憶媒体に記憶させるとともに前記所定情報を前記可搬性記憶媒体から消去し、前記可搬性記憶媒体が前記所定エリアに持ち込まれる場合に、前記他の記憶媒体から読出した前記所定情報を前記可搬性記憶媒体に書込むよう制御することを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明によれば、可搬性記憶媒体が所定エリアから持ち出される場合の情報の漏洩を防止するとともに、可搬性記憶媒体に記憶された情報の所定エリア内での利用を可能とする情報処理装置及び情報処理方法を提供することができる。